元副総理重光葵外相と別府博について

小玉洋美

一、重光葵前外相の急逝

昭和三十一年（一九五六）十月の鳩山一郎首相の「日ソ共同宣言」の締結によって、日本の国際連合への加盟が実現した。同年十二月十八日の第十一回国連総会において重光外相が、国連加入後の国際社会において日本は「東西の架け橋になる」との有名な演説を行なった。その二日後に第三次鳩山一郎内閣が総辞職し、石橋内閣が誕生したので重光葵先生は外相の地位を失った。

しかし在職中に約束し許可してあった別府博への国際館の建設と外交文書（実物）の展示は実現されている。

重光葵前副総理が大分に帰ったのは、翌年一月十四日に開催された自民党大分県連の総会に出席するためであった。翌十五日の「成人の日」には日出町と杵築市の成人式に出席して祝辞を述べている。別府市の杉の井ホテルに常宿し、国東半島を一巡し選挙地盤（重光会）を固めるために強行軍をした。十七日には真玉町の小田氏宅に泊り、十八日には杵築高校で「志四海」を揮毫（きごう）している。その間に杵築市八坂の重光家と国東市山口の重光家の墓参りをしている。十九日の朝、杉の井ホテルを出発する際に、多くの知人・関係者と別れを惜しんだという。無口な重光先生の意外な一面を知った人もあった由である。十九日に帰京された先生は、一週間後の一月二十六日深夜湯ケ原の別荘で急逝された。

地元の『大分合同新聞』は一面に五段抜きで『重光前外相が急死』と報じ、岸信介外相をはじめ、木下郁大分県知事

戦後初めて帰郷した折に、別府海地獄にて
（右より）重光華子さん、重光夫人、阿部信治氏・杉原時雄氏・
重光先生は椅子にかけている、杖を持つ人は加藤称司氏

ら中央地方の関係者、ダレス米国務長官ら外国の要人も追悼のコメントを掲載している。重光先生を知る人にとってはまさに青天の霹靂であった。

二、別府温泉観光産業大博覧会（別府博）の開催

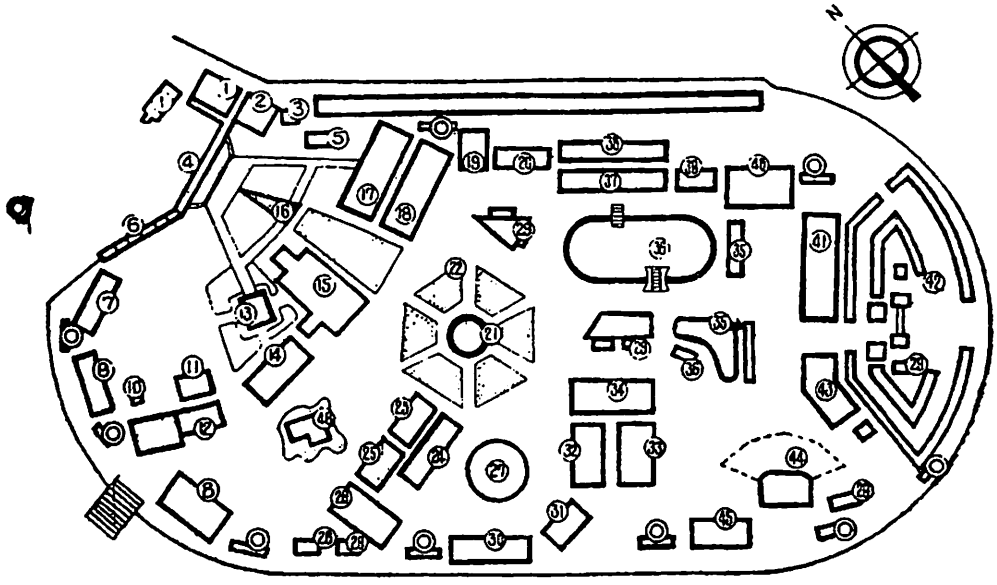
別府博は別府・阿蘇・雲仙・長崎を結ぶ九州横断道路の着工を記念して、大分県と別府市の共催で昭和三十二年三月二十日に開催された。五月二十日の閉会まで六十二日間にわたる大イベントであった。国際観光温泉都市別府の荒金啓治市長の公約が、三年ぶりに実現。荒金市長は別府博会長として、関連施設（中央公民館・温泉プール・不老泉など）を整備し、大博覧会を成功させている。

移駐したばかりの米軍キャンプ跡地の五万坪の会場には三十余館のパビリオンが建てられていた。大分合同新聞の記事によると、

五万坪におよび広大な会場には、戦後十二年の産業復興の歩みをはじめ国内産業の振興のあと、観光の大分県の資料が一堂に集められている。特に日本一の温泉を誇る泉都ならではできない温泉をテーマとした施設の数々は全国まれにみるものと言われている。九州横断国際観光ルートの大パノラマ、広さ二十坪の別府市観光図をはじめ全国都道府県の観光を九十小間に収めた温泉観光館を振り出しに、熱帯動植物館、温泉科学館、大分県館など三十余館をめぐるにはゆうに三時間はかかるが、演芸まで見ると（略）

右のパビリオンの説明に『国際館』を飛ばしているのは何故だろうか。重光外相の肝入りで実現した国際館と貴重な展示品は、前外相の急死によって無視されているようである。同紙には「会場の案内図」が掲載されているが、これによると、国際館は正門を入って右側の最初のパビリオンで警備の眼が届く位置（現在の青山高校の正門下のグランド）に設置されていた建物で、別府博の「温泉・観光・産業」とは異色のパビリオンであったこ

別府博の会場（正面入り口）　大分合同新聞より切抜く



昭和32年　別府博施設配置図

とが伺える。

会場の案内図

①②事部局　③救護室　④正門　⑤協会事務局　⑥キップ売場　⑦国際館　⑧？　⑨原子力平和利用館　⑩救護所　⑪宗教館　⑫電信電話館　⑬迎賓館　⑭温泉科学館　⑮熱帯動植物館　⑯池　⑰温泉観光館　⑱大分県館　⑲？　⑳九州産業館　㉑温泉塔　㉒水呑場　㉓体育保健館　㉔電気屋会館　㉕海外発展館　㉖美術館　㉗自動車館　㉘湯呑場　㉙食堂　㉚交通運輸館　㉛国鉄館　㉜恐竜科学館　㉝宇宙探検館　㉞活動写真館　㉟休憩所　㊱子供の国　㊲㊳新日本産業館　㊴新聞置場　㊶専売館　㊷近代工業館　㊸農機具実演場　㊹芸能センター　◎便所

三、国際館の展示について

昭和三十二年に別府市亀川の二豊の文化社より限定二〇〇〇部で出版された『重光向陽小伝』（豊田国男・西香山編）に載っている記事を転載したい。筆者は長い間重光葵先生に師事した阿部信治氏（元上海副領事・杵中二〇回卒）である。

別府博の『国際館』と重光さんの厚情

別府市で本年三月二十日から、二ヶ月間にわたり開催された博覧会の中で、異彩のあったものの一つに〝国際館〟のあったことは、入場者の誰もがまだ記憶せられていると思う。この館に飾られたものは、次表の通り吾国外交を中心とした所謂国際的貴重な資料のみで、殊にその中核をなすものは、会期中中央の硝子ケースの中に展示されていた、日本外交百年の歩みを偲ばせる各種の重要な外交関係文書類であった。(写真版の外は全部実物)

別府博〝国際館〟に出陳された外務省からの主な文書

(一) 日米和親条約(写真版)…安政元年
(二) 米国公使タウンゼント・ハリスの解任状…文久元年
(三) 幕末頃の米国及びオランダの国書入れ
(四) 明治維新の動乱の際英国公使パークスが発した局外中立宣言布告書…明治元年
(五) 日本国—西班牙国条約書…同元年
(六) 日本国—朝鮮国間修交条規調印書…同九年
(七) 日清天津条約調印書…同十八年
(八) 伊藤博文から外務大臣榎本武揚あての自筆書翰…同二十四年
(九) 明治二十七年締結日英通商航海条約調印書及び批准書…同二十七年
(一〇) 日清講和条約調印書…同二十八年
(一一) 第一回日英同盟協約調印書…同三十五年
(一二) 日露講和条約調印書…同三十八年
(一三) 満州五案件に関する日清協約調印書…同四十二年
(一四) 大正四年北京条約(所謂二十一ヶ条々約)…大正四年
(一五) 第一次世界大戦に際し単独不講和を約した日露仏英伊五国宣言書…同四年
(一六) 大正五年(第四回)日露協約調印書…同五年
(一七) 中国に関する日米交換公文(所謂石井・ランシング協定)…同六年
(一八) ワシントン会議で調印された海軍々備制限に関する条約(認証謄本)…同十一年
(一九) 日ソ基本条約調印書及び批准書…同十四年
(二〇) 日満議定書…昭和七年
(二一) 斉藤内閣の五相会議で決定した外交方針に関する在

英米大使宛電報…同八年

（二二）日独伊三国同盟条約調印書…同十五年

（二三）日華基本条約調印書…同十五年

（二四）昭和十六年の日米交渉関係電報原稿二件（日本側最後案、米側のハル・ノート）…同十六年

（二五）昭和二十年五月の最高戦争指導会議構成員会議記録…同二十年

（二六）ポツダム宣言受諾に関する最初の電報…同二十年

（二七）降伏文書（実物大写真・重光全権署名のもの）…同二十年

（二八）サンフランシスコの対日講和会議における吉田首席全権演説草稿…同二十六年

（二九）日本国との平和条約（認証謄本）…同二十六年

（三〇）日ソ共同宣言調印書（写真版）…同三十一年

以上の品々は、太平洋戦争中は日本銀行地下室の金庫に厳重保管されたが、戦争終了後は外務省の書庫深く大切に所蔵されていて、同省の係官ですら殆んど見ることも出来ない程、厳重にされている貴重資料なのである。それ程貴重な数々の資料が、しかもけんを競って何故この辺地の一博覧会に出陳されたかと言えば、これ全く当時の外相重光さんのおおらかな心尽しに外ならなかったのであった。

言うまでもなく、これまで各地で大小の博覧会は開かれたのであるが、外務省からこのような門外不出の珍しい外交文書類が、省外に持ち出され、国民大衆の前に展観されたことは、かつて一度もなかったのである。今回の別府博に限って、このような思い切った措置が講ぜられたのは、全く重光さんのお蔭であって、この一ことのみから言っても、当事者としては最大の感謝を故重光氏の霊に献ぐべきではあるまいか。

因に右の文書類とは別に、国際館の壁面に飾られてあった国連加盟の際の日章旗掲揚の場面を表わしたパノラマは、実は重光さんが他界された日より僅か八日前の一月十八日夜、別府で開かれた重光会の歓迎会席上で、私は突然大臣に呼ばれ「国連加盟関係のスライドをすぐ上映するようにしてくれ」と言われたので、早速木村秘書官に連絡の上、上映した場面の一つで、重光さんとしても特に感慨深い一コマであったろう。

「そうであったのか…」と、あの〝国際館〟の内容を今一度想起されると共に、郷土に示した巨人外交官の温かい思いやりを繰り返し偲ぶことも、無意義ではあるまい。